

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	朝日大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	アサヒダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	産業実習
	学部・研究科等名	経営学部
	担当教職員名・役職	経営学部長 岩崎大介 経営学部 教授 土井義夫
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	12
	受入企業等数	6
	受入企業等名	西濃運輸株式会社、株式会社セイノー商事、株式会社セイノー情報サービス、ココネット株式会社、岐阜日野自動車株式会社、沖縄西濃運輸株式会社
	インターンシップの分類	4.他県をまたぐ広域インターンシップ、6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ、7.中小企業でのインターンシップ、8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事、2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外で実施している就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	・現場作業、営業業務添乗、発送業務、物流業務等・商品選定、取引先訪問、商品ページ作成等・企業調査、提案書作成、コンテンツ作成等・車両受付、部品配送、登録業務等・マネジメントセッション、横乗り接客等・事務業務、ピッキング、梱包等
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している、6.当該インターンシップは、選択科目として実施している、8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	・指導教員の推薦する者を対象に、面接等により参加学生を選考	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている、2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている、3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている、4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている、2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている、3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	この「産業実習」に係るインターンシップ制度は、2年次に開講する関連科目「特殊講義」を履修した者から選考しており、事前学習は十分に行っている。また、当該学生は「産業実習」開始前に企業訪問を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	・学生から産業実習実施報告書、企業側から実習評価表の提出を求める。・企業側教職員、大学側教職員を前にした、インターンシップ成果報告会を開催し、において、企業側教職員、大学側教職員を前に、実際の就業体験を通じて取得した知識や課題を持って取り組んだ成果を発表する。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	・指導教員が定期に訪問するのみではなく、毎日、メール等により状況確認、指導を実施している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている、2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業側から「産業実習報告書」の作成を求められ、事後の「実習評価表」も併せて、総合評価される。
西	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	8日間、9日間、15日間

要素⑤	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	8日間(60時間 or 61時間)、9日間(68時間)、15日間(124.2時間)
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	大学と企業との産学連携活動に関する協定活動の一環として実施している。よって、事前・事後学習からその成果発表、評価に至るまで、十分な協働体制を構築した上で、上記6-2に記載する内容をほぼ充足している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://risyu.asahi-u.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00802A.jsp">https://risyu.asahi-u.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00802A.jsp</a>
問い合わせ先	大学等名	朝日大学
	担当部署名	朝日大学学事部学事二課
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	058-329-1077
	メールアドレス	gakuji2@alice.asahi-u.ac.jp